

平成23年度 第3回練馬区高齢者保健福祉懇談会 会議要録	
1 日 時	平成23年7月5日 (火) 午後3時から5時まで
2 場 所	練馬区役所 本庁舎5階 庁議室
3 出 席 者	<p>(委員 18名) 市川会長、児玉会長代理、佐藤繭美委員、大河原委員、斉藤委員、佐藤綾子委員、長井委員、永原委員、西委員、田中委員、中村委員、青木委員、石川委員、増田委員、小美濃委員、大垣委員、川島委員、城間委員</p> <p>(区幹事 14名) 健康福祉事業本部長、福祉部長、介護保険課長、福祉部経営課長、高齢社会対策課長、光が丘総合福祉事務所長、住宅課長、 ほか事務局 7名</p>
4 傍 聴 者	0名
5 議 題	<p>(1) 委員委嘱 (2) 練馬区高齢者基礎調査の報告 (3) 法政大学 佐藤准教授 講話「地域貢献につながる社会参加の促進」 (4) 課題の検討「地域貢献につながる社会参加の促進」 (5) その他 (6) 次回予定</p> <p>日時 平成23年8月12日(金) 午後3時～午後5時 会場 練馬区役所本庁舎5階 庁議室</p>
6 資 料	<p>1 次第 2 資料1 検討課題「地域貢献につながる社会参加の促進」について 3 資料2 第5期練馬区高齢者保健福祉計画にかかる検討課題「地域貢献につながる社会参加の促進」 4 資料3 練馬区の主要な社会参加関連の施策 5 資料4 地域包括ケアシステムについて 6 参考 練馬区高齢者基礎調査(平成23年3月)本編冊子 7 参考 同 概要版パンフレット 8 参考 平成23年度版 高齢者の生活ガイド 冊子 9 練馬区高齢者保険福祉懇談会委員名簿および座席表(両面印刷)</p>
7 事 務 局	<p>練馬区 健康福祉事業本部 福祉部 高齢社会対策課 計画係 TEL 03-5984-4584</p>

## 会議の概要

---

(会長)

ただ今より、第3回練馬区高齢者保健福祉懇談会を開催する。

(事務局)

【委員の出欠、傍聴の状況報告、配付資料の確認】

(会長)

人事異動により交代のあった区幹事の紹介をする。

【区幹事自己紹介】

(会長)

続いて、新任委員の委嘱を行う。

練馬区立豊玉高齢者センター所長の人事異動により、伊瀬委員が退任され、後任の城間委員が就任する。

【委嘱状交付、および新任委員自己紹介】

(会長)

次第(2)に進む。練馬区高齢者基礎調査の報告について、説明をお願いする。

なお、ここでは調査結果のうち、本日の討議テーマに関連する部分についての解説をお願いしたい。「見守り」、「住まい」分野に関する解説は、次回会議の際にお願いする。

(高齢社会対策課長)

報告書冊子24～36ページ「3. 社会参加」の部分が、本日のテーマとなる。

解説は、調査委託会社の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所（以下、「ジャパン総研」という。）をお願いする。

(ジャパン総研)

【参考 練馬区高齢者基礎調査（平成23年3月）本編冊子の説明】

【参考 同 概要版パンフレットの説明】

(会長)

社会参加には、44～48ページ「5. 介護予防事業等」の部分にも影響があると思う。高齢者がどのような方法で自身の健康を維持しているかが理解できると思う。

また、31・32ページの「(4)これから高齢期を迎える方の地域との関わり」について、「挨拶をする程度」という回答が最多である。このような現状と、今後、どの様に地域と関わりと思っているかの希望とのギャップについて、今回の調査結果から分析は可能か。

(ジャパン総研)

今回調査の設問では、「地域活動への意向」について直接には聞いていないが、「地域活動への参加状況」に関する設問で、参加していないという回答をした方に対し、参加のための条件を聴いている。内容としては「時間に余裕があれば」、「関心・興味のあるテーマがあれば活動したい」といった回答が挙がっている。これらの結果と併せて分析することで、何らかの傾向が見られればご報告したい。

(会長)

地域活動について、参加したいという意向を持ちつつも実際にはできない等の、希望と現実のギャップをどう埋めるかが、施策を考える上での重要な部分である。ぜひ分析、検討をお願いしたい。

(委員)

高齢者基礎調査という形態の調査になって、今回で3回目の実施と思う。この様な調査では、以前の結果との比較が重要だが、どのような状況か。

(ジャパン総研)

今回の報告書では、前回調査との経年変化の比較は行っていない。

(会長)

特別養護老人ホーム入所待機者調査および、日常生活圏域ニーズ以外は、前回調査と同様の調査である。個々の設問の修正はあるものの、おおまかには比較可能と思われる。今後の計画策定に向け、分析していただきたい。

(委員)

31ページ「これから高齢期を迎える方の地域との関わり」について意見したい。

実際には、地域による差異があると思う。例えば、約20年前に大規模集合住宅ができた光が丘地区と、昔からの地主の方々が地域活動を積極的に牽引している田柄地区では、地域特性が大きく異なる。田柄地区では、長年居住している住民の活動がある一方、比較的新しい住民の地域活動について、どの様に参加を促すかが課題になっている様である。

このような調査を参考にする場合は、地域特性にも配慮する必要があるのではないか。

(光が丘総合福祉事務所長)

区では、各地区の民生委員・児童委員協議会の事務局をやっているが、各地域の民生委員・児童委員の活動状況等を聞くと、ただ今のご意見の様に、光が丘地区と田柄・春日町地区はかなり特色が違うという印象を受けている。

しかしながら、地域活動をしている方としていない方が、全く白と黒に分かれるというわけではなく、皆さん、多かれ少なかれ参加したいという気持ちはお持ちの様である。古くからある田柄地区は、町会という大きな組織の中で、その様なニーズが吸い上げられているし、光が丘地区の様に比較的新しい地域においても、町会をはじめとする地域団体等を通じて、徐々に同様の形ができつつあると感じている。

(高齢社会対策課長)

高齢者一般調査については150ページに、これから高齢期を迎える方の調査については166ページに居住町丁目の集計がある。各設問と、居住町丁目をクロス集計することで地域ごとの特性について、何らかの傾向が見られるのではないかとと思われる。

ただし、これから高齢期の方については、母数が非常に少ないので、特性が分かりづらいと思われる。

(会長)

地域の単位について、介護保険においては日常生活圏域という考え方がある。単純に町丁目別に分割するのではなく、一定程度グルーピングした単位での傾向を見ていく方

が望ましい。

ところで、社会福祉協議会では、ボランティア活動の推進に取り組んでおられると思うが、その実態をご紹介いただくことは可能か。

(委員)

相談者の年齢は把握していないため、高齢者に限定した件数は不明だが、全体としての傾向は出せると思う。

(会長)

高齢者を対象としたサロン事業等について実態は把握されているのか。

(委員)

現在、社会福祉協議会のボランティア・地域福祉推進センターでは、「小地域福祉活動」として、身近な地域で高齢者をはじめ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指して、住民や地域団体が取り組む福祉活動の推進に着手した段階である。地域で活動する団体等が実施しているサロン事業の状況についてはまだ把握できていない。

(会長)

他自治体の例を見ると、高齢者を対象にしたふれあいサロン等は、介護予防の側面を持っているため、地域での自主的な介護予防の推進のために支援できる可能性がある。

また、活動の形態についても、ほっと一息つける地域の止まり木のあり方を指向する場合や、ボランティアを活用し、積極的に事業展開していきたいという場合等様々である。目的により、アプローチの仕方も異なってくると思われる。社会福祉協議会からも情報提供していただければと思う。

(委員)

私自身の地域との関わりについて話したい。

私は結婚してから40年余り、ずっと集合住宅で生活してきた。子育て時期には、非常に親しい近所付き合いがあり、いまだに一緒に旅行や食事会を楽しむ関係である。しかし、その後の時期には近隣の方との密接なお付き合いというのは皆無である。

現在は、地域で開催される講座等に参加しているので、そこでの交流もあるが、今後、外出できなくなったときに、挨拶をするだけの近所付き合いでは寂しいのではないかと不安に感じている。

(委員)

先日、元岩手県知事の増田寛也氏の講演で、現在、都市部の集合住宅では表札を出さない世帯が多く、その様なところから近所付き合いも断たれていくのではないかという話があった。先ほどの委員のお話と通じる場所もあると思う。個人の努力が求められる部分の問題だけでなく、社会構造に起因する問題もあるのではないかと感じている。

(会長)

今の話にも関連すると思うので、次の、次第(3)「地域貢献につながる社会参加の促進」の講話について、学識経験者の佐藤繭美委員から願います。

(委員)

【資料1 「地域貢献につながる社会参加の促進」についての講話】

(会長)

続いて、次第(4)に進む。資料2～4の説明をお願いします。

(高齢社会対策課長)

【資料2 第5期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画にかかる検討課題  
「地域貢献につながる社会参加の促進」の説明】

【資料3 練馬区の主要な社会参加関連の施策の説明】

【資料4 地域包括ケアシステムについての説明】

(委員)

社会参加について、老人クラブの活動を紹介したい。

老人クラブでは友愛訪問といって、高齢者の自宅等を1軒ずつ回る活動をしている。活動の対象者は会員に限らず、また、クラブへの入会勧誘等はしていない。先ほど、外出が困難になったときに寂しくなるという意見があったが、そのような方には活用していただきたいと思う。

東京都の老人クラブの大会や会議にも出席しているのだが、練馬区ほど地区区民館や敬老館等の施設を開放してくれている所は他にはなく、ありがたく思っている。東日本大震災の義援金についても、都全体の約3,000万円のうち、練馬区からの寄付は500万円に達している。強制されたからではなく、皆さんが自発的に一所懸命取り組んでくださった結果である。行政が良く支援してくださるので、それに応えて一生懸命やるというのが、私たちの今の姿勢である。

この他、ウォーキング活動も行っている。元気な方は基礎通りの歩き方でかなりの距離を歩くが、体の弱い方、足の悪い方は、自分のペースで取り組めるよう違うコースを設定している。この取り組みは、全国でも様々な所で事例として取り上げられている。

練馬区は老人クラブと行政が密接に連携し、積極的な取り組みを続けており、全国の事例として発表される水準の活動をしている。

今後は、これまでの活動に加え、栄養改善等の事業にも取り組みたいと思っている。

認知症サポーターについても、さらに増やしていきたいと考えている。

(会長)

老人クラブがどのような活動をしているかについて事例が挙げたが、第5期計画では、各分野の活動について、事例として幾つかピックアップして掲載しても良いのではないか。具体的な活動が紹介されることで計画の厚みが増すと思う。

区民委員の中に、地域福祉パワーアップカレッジねりまの卒業生がいると思うが、地域福祉の勉強をした中で感じた点等をうかがいたい。

(委員)

私はパワーアップカレッジの3期生で、ちょうど、本日が卒業式だった。

パワーアップカレッジでの2年間の学習はとても素晴らしく、地域のことが大好きになり、地域の中でのつながりも広がった。このつながりを今後も大事に育てていこうというのが卒業生一同の思いである。こういうものの存在を、もっと多くの人に知ってもらうことが、私達の今後の課題だと思っている。

また、私は高齢者の見守り訪問員もしている。訪問員として活動する中で抱いた印象

として、元気な高齢者の社会参加について、参加したいという気持ちはあるが、新しい所に自分から入っていくのには躊躇するという方が多い。そのような方を訪問すると、訪問員である自分との関係を密にしたがる方もおられる。しかし、そこで満足してしまうと、社会参加にはつながらないので、どうすれば自分の家から外に出ていただけるかについて、皆様からお知恵を拝借したいと思っている。

(会長)

例えば、見守り訪問員をはじめ、老人クラブやその他の様々な団体の活動から積み重ねられた事例をモデル化する方法が考えられる。それらを共有することで、関係者全員のノウハウを向上させていくことにもつながっていく。

(委員)

「地域貢献につながる社会参加」という課題は、元気な高齢者に対し、いかに練馬区の活動に参加していただけるかを考えるということが基本だと思う。しかし現実には、元気な方は、地域活動より、高校、大学、会社のOB・OG等のつながりによる活動が多くを占めている。私自身、中小企業の支援をするNPOへの参加等、様々な活動をしているが、大半の活動は練馬区外で行っている。周囲の知人も、ほとんどが地域の外で取り組んでいる様である。身近な地域での活動に目を向けるのは、もっと先の事だと考えていると思われる。

自分自身の練馬区関連の活動としては、高齢者保健福祉懇談会の様な会議に月に数回参加したり、観光協会でガイドの手伝いを始めている。しかし、地元で活動する機会はそれほど多くないと感じている。

退職後の地域活動として思い付くのは、子ども達にサッカーや野球を教えたり、自然科学の講座等で科学の面白さを教えるといった活動である。また、小学校でも英語の授業が始まるそうだが、練馬区には海外で活躍されていた方も多くいらっしゃると思うので、これまで積み重ねてきた経験を子ども達のために活かす機会もあるのではないだろうか。

ところで、今後、練馬区の地域特性を活かした地域活動として考えられる分野といえば農業ではないだろうか。農業は、子どもから高齢者まで一緒に参加できるし、市民農園等を利用すれば、地域住民同士のつながりもできると思う。

以上のようなことを含め、練馬区の特徴を活かした活動の場や機会の提供を、予算も含めて少し考えていただければと思う。

(会長)

活動の対象が幅広い年代となる分野の場合、高齢者がどの様に関わるのか、また、活動内容は、高齢者が地域に出る行くためのきっかけにつながっていくものなのか、加えて、活動を支援するための方法等、考えるべき要素が幾つかある。

今のご意見は、地域には様々な知識、経験を持った高齢者がおり、きっかけがあればその能力を地域で活用できるという主旨である。

能力のある方が、地域に貢献するための場、機会を提供するための方法、また、地域活動への参加を促進するための仕組みをどの様に構築するか、検討を重ねていくことが大切である。

(委員)

今の話の様に、新たな仕組みを構築するという話もあると思うが、既存の制度を活性化させる取り組みも必要だと思う。

資料3(2)「地区区民館・地域集会所の活用」について、地区区民館は22館で利用率89.3%、地域集会場は27カ所で79.2%とあるが、地域の拠点での活動をもっと盛んにするためには、発表の場等、何か励みになるようなものが提供されると良いと思う。そうすれば、当人達の励みになると同時に、その様な活動の存在が区民に知れ渡ることにもつながる。既にある資源を活かしていくことも、場、機会の提供においては非常に大切な事だと考えている。

(委員)

今までのご意見等を整理すると、社会参加という施策の論点が大きく3つに分かれていると思う。

1つ目は、地域の高齢者が、より良い暮らしや時間を過ごしていただくための、地域貢献となる活動を通じての社会参加という、かなり限定された施策の話である。

2つ目は、例えば、外国人を助けるボランティアや、景観ボランティア等、地域貢献の範囲をもう少し幅広く捉え、サービスの担い手となる高齢者の中でも比較的若く元気な方の活動の場・機会を提供していく施策が必要であるという話である。

3つ目は、元気であることそのものが社会貢献であり、地域参加だという考え方に立ち、高齢者自身が高齢者として、すなわちサービスの受け手として楽しむ施策の話である。

この計画の中には、この3つをどの様に織り込むのかをお聞きしたい。3つ全てを入れるのか、それとも、佐藤先生の講話にあったような1つ目の論点をベースに考えるのか。

(高齢社会対策課長)

課題名称の「地域貢献につながる社会参加の促進」は、1つ目の論点を基本としているが、計画における社会参加という施策全体では、3つの論点のうち後の2点の意味も包含していくつもりである。具体的には、いただいたご意見も踏まえながら、さらに検討していきたい。

(会長)

施策を考える際には、対象である高齢者を軸として、誰が、いつ、どの様に、何をやるのかといったイメージを絞りながらまとめていく必要がある。

例えば、資料3の施策についても、計画上の位置づけを決定する際には、能力があっても、何かやりたいと思っているけれども、やる機会がない方とか、閉じこもりがちになっている人にどう働きかけるか等、対象や主体、重点をもう少し明確にした上で練り直せば、整理しやすいのではないかと思います。

また、老人クラブ等の地域の様々な活動を、個々のサービスとして提供するだけでなく、複数のサービスを1つのパッケージにして、新たな支援システムという形で提供する方法も検討できるのではないかと思います。

(委員)

実践的な取り組み事例を、ストーリー仕立てで掲載すれば、初見の方にも理解しやすいのではないかと思います。一般区民の立場としては、数多くの施策の説明と数値が羅列されているだけでは分かり難いため、興味が持てないのではないだろうか。第5期計画では、分かりやすい書き方をさせていただければありがたい。

また、資料中では触れられていないが、成年後見制度についても着目していただきたい。それまでに培ってきた専門性を活かして地域に貢献する点では、後見人として活動することも当てはまるのではないかと思います。

ところで現在、高齢者のグループ活動の多くは、80歳近い方が中心となっており、比較的若い高齢者の方にとっては入りにくい部分があるのではないだろうか。これから高齢期を迎える方が入りやすいテーマが今回の計画の中に入っていれば、嬉しい。

(委員)

高齢者保健福祉計画として、場や機会の提供の方向性について、高齢者をどうケアするか、また、元気な高齢者の活力をどう地域に還元していくかという視点からまとめていくという軸は、当然持っていなければいけないと思う。

しかし、実際に地域において施策を展開する場合には、参加者の多様性と、役割の多面性への配慮が必要である。本来、地域とは様々な年代・職業の方が混じり合い、各々が多様な役割を持っているものであり、サービスの担い手と受け手の関係は、常に固定化された一方的な関係ではないはずである。ある場面では世話をされる側の方が、別の場面では世話をする側に立つこともあり、役割が循環していく様なあり方が、地域の発展のためには望ましいのではと思う。

一例として紹介するが、先日、まちづくりセンターが主催し、住宅の戸数と世帯数とのバランスが崩れ、空き家が沢山出てきている現状を受け、空き家を生かした地域の居場所づくりというテーマで講座を行った。講座の反響は非常に大きく、参加者は100名以上に達した。参加者からは、自分も同様の物件を所有しており是非やりたいという要望と、反対に、地域の人を支援する活動をしているが活動拠点がなくて困っているという、両方のニーズが寄せられた。

あえて対象や年齢を絞り込まないことで、多様な人材が地域に流入したり、異なる分野で活動をしている方達が出会うきっかけになることも多い。そこからまた、新しい活動が生まれてくるのだと思う。

この様に、区立施設にこだわらずとも、柔軟な形で皆が使えるような場づくりに取り組むことも必要なのではないか。

他区の例では、空き店舗等を区が借り上げ、地元の大学や、地域の町会、商店街等の協力を得て、あらかじめ目的を設定しない地域のたまり場として運営する取り組みをしている。運営を通じ、地域の潜在的な活力を引き出すことで、地域の様々な課題に対応する力を高めるという実験的な事業である。参考にできればと思う。

(会長)

今のご意見は、アイデアがあっても活かす拠点が無い等、場づくりで行き詰まることが多い中で、脚光を浴びている部分である。練馬区の計画においても、具体的な手法等

の有効性を検討していただきたい。

(委員)

高齢者基礎調査報告書14ページ「年収」について、所得格差により、社会参加、地域貢献ができる方とそうでない方がおられるのではないかと思います。経済的な困窮に対する支援等の方針があれば教えていただきたい。

(高齢社会対策課長)

今のご意見は非常に重要な論点である。区内部においても、施策立案にかかる検討の際、サービスの受け手ではなく、担い手として地域貢献、社会参加していただくことを考えるには、前提としてある程度の経済的余裕が必要なのではという議論があった。

サービスの受け手に対しては、介護保険制度上でも低所得者向けの支援がある。一方、サービスの担い手となる社会参加の部分では、所得の少なさをフォローできる施策は生活保護制度しか無い。別途に何か施策を立てていくということも、現実的には難しいと考えている。

地域貢献につながる社会参加について、年収の観点から考えた場合、どのような層が主な担い手になるのかは、今後、議論を重ねる必要がある。短期的に解決できる問題ではなく、第5期計画において、そこまで踏み込んだ内容を記載するのは難しいと考えている。

(会長)

低額あるいは無年金の方は相当多く、特に女性が多いという現状がある。そういった中での1つの選択肢として、社会参加をしながら少しでも収入が入るような仕組みづくりについても、検討する必要があると思う。

(高齢社会対策課長)

仕組みづくりまで踏み込むのは難しいと思うが、就労のサポートとなる事業としては、資料3 2ページ「(4)シルバー人材センター」および、「(8)アクティブシニア支援事業」がある。これらの事業は、短期的・臨時的な就労を紹介し、年金で暮らしている方等が社会参加しながら、生活費の足しにもしていただくことを目的としている。これらの事業は、今後も利用を促進していくつもりである。

(会長)

一般的な就労という視点とは別に、少し働きながら、ちょっとした収入が得られるという形も選択肢の1つとして、支援していく位置付けにしても良いのではないかと思います。

(委員)

資料2【現状と課題】の中に、地域活動への参加状況が35%とあるが、この数値は日常生活での体感に比べ少ない様に感じる。

私は区が主催する様々な講座、集会等に申し込んでいるが、どれも大変盛況なため抽選となり、希望してもなかなか参加できない状況である。豊玉高齢者センターの麻雀教室に応募した際は、3回目でやっと当選した程である。他にも、古典講座や美術講座にも参加しており、とても充実した時間を過ごさせていただいている。今後も、事業を継続、拡大し、より多くの方が参加できる様にしてほしい。

残りの65%の人についてだが、「時間に余裕があれば」、「関心や興味があるテーマ

があれば」といった回答が多い様だが、最大の問題は本人の意欲だと思う。本人が「行きたい」、「楽しみたい」、「自分も何かをやりたい」という意志が無い状況で、外部からの働きかけで参加率を上げることは難しいと思う。高齢者の多くが関心を持てる様な事業が求められていると思う。

最後に、収入の点に関して意見を述べる。以前、光が丘で開催された古典講座を受講した際、初回到1,000円の参考書を購入したが、参加者の1人は、その参考書を買わずに受講していた。先ほどのご意見を踏まえると、もしかすると、その方も経済的な問題を持っておられたのではないかと思った。実費負担等、必要な場合があるのは理解しているが、参加を促進するために、できるだけ配慮していただきたいと思う。

(委員)

ただ今のご意見にあったとおり、豊玉高齢者センターでは様々な教室事業を行っているが、中にはボランティアの方々が講師を務めている講座等も多い。

また最近では、お一人では地域に入り込んでいけないという方に対して、朗読サークルを介して子ども祭り等で紙芝居をしてもらうとか、麻雀ができる方にはデイサービスで麻雀のお相手をしてもらうといった形で、高齢者センターがコーディネートして、地域での活動を紹介する取り組みを行っている。

昨年度、豊玉高齢者センターでは約1,000人の新規登録者があった。うち、60代前半の方は約2割であった。今後は、より多くのこれから高齢期を迎える世代の方に来ていただけるよう、地域につながるための活動の紹介やコーディネートをしていきたい。

(委員)

高齢者基礎調査の24ページ「地域活動への参加の状況・きっかけ」で、活動はしていないという人がこれから高齢期一般で76.4%とある。これは自分の住んでいる地域の、町会、自治会、ボランティア、NPO等に参加していないという意味か、あるいは練馬区外での活動も含まれているのか。

(ジャパン総研)

設問は「あなたは現在、町会、自治会やボランティア、NPO等の地域活動を行っていますか」という形なので、身近な地域以外での取り組みも含めて答えられている方も多いと思う。

(委員)

高齢者基礎調査の28ページ「就労意向・形態」を見ると、高齢になっても社会に参加したいとか、社会の役に立ちたいという意識を強く持っておられる方が多いことがうかがえる。

現在、介護分野では、介護を担う人材が不足しているという状況があるが、一方では退職後に練馬区に戻って働きたいという方も多い。このような意欲を持つ方を積極的に雇用することは、雇用者、労働者および介護サービス利用者にとっても良いことと思われる。例えば、現役時代に運転手の仕事をしていた方にデイサービスの運転手になっていただく、ご主人の定年後にホームヘルパー2級資格を取得しヘルパーとして働きたいと考えている女性を活用する等の方法が想定される。

練馬区は、介護人材の確保施策に力を入れており、就職面接会等の事業を進めていた

だいている。このような事業を活用することで、元気な高齢者の活動の場・機会は今後さらに増えてくると思う。

(会長)

以上で討議は終了したい。最後に、次第「(6)次回予定」の説明をお願いする。

(高齢社会対策課長)

次回の検討課題について、当初は入っていなかったが、今回、新たに見守りというテーマを掲げている。そのため、次回は住まいと見守りについて討議をお願いしたいと考えている。

(事務局)

**【次回予定の説明、および諸連絡】**

(会長)

健康福祉事業本部長よりあいさつをお願いする。

(健康福祉事業本部長)

**【あいさつ】**

(会長)

以上で本日の懇談会を終了する。